ネットワークセミナー009
「ぱれっとが家をつくりました。～ぱれっとの家 いこっと～」
記録

- 日時：2010 年 06 月 12（土）　15:00～18:00
- 場所：恵比寿 ひがし健康プラザ
- ゲストスピーカー：NPO 法人ぱれっと　菅原氏（事務局長）、高取氏（ぱれっとの新しい家づくり計画実行委員長）、松村氏（ぱれっとの家 いこっと 居住者）
- 進行：NPO コレクティブハウジング社　影山、伊藤

- セミナー内容：

○菅原氏よりNPO法人ぱれっとの活動紹介

＜概要＞

- 「いこっと」を作った理由
  障害者の住まい割合は自宅が 80%で、他に受け入れ先がないのが現状。障害者の住まいの受け皿、選択肢作ろうと考えた。
- 新しい家づくり計画は、長年ぱれっとを支援していただいている株式会社東京木工所に計画の意義を賛同いただき、ぱれっとと東京木工所の協働事業として始まった。具体的には、東京木工所が土地の提供と建物の建設を担い、ぱれっとが建物をサブリースで借り受けて運営している。設計は株式会社トムコが担当した。
- ぱれっとの目的は理念を全国につなげていくこと。障害者が少しの支援で自立した生活が可能となることを実際に示していくことで、認知度を向上させ全国に広げていきたい。
- 「いこっと」について
  ①障害のある人ない人が一緒に住まう家。
  ②企業との協働事業である。
  ③職員だけでなくボランティアや障害者本人、親など計画に多数の人が参加している。
  ④自分たちで暮らしを創っていくコレクティブハウスの家づくりを参考にしている。
- 「いこっと」が完成してからの状況
  運営面でのぱれっとと居住者組合の役割棲み分けを模索している。

○QAセッション

＜主な QA の概要＞

- 「いこっと」に実際に住んでみての感想はいかがですか？
  ー　[松村氏] 他人と一緒に住むのはやはり大変(人間関係、掃除の仕方などでの相違があるので)だなぁと感じます。障害者のある方については、日常的な支援は特になくて

も普通に生活ができています。

- 「いこっと」に住もうと思った個人的な動機は何ですか？
  ー　[松村氏] 一人暮らしをするにあたってどんな暮らしがしたいかを考えたときに、ぱれっとから「いこっと」についての相談があり、住むきっかけとなりました。もともとはボランティアに参加していて、その後ぱれっと実行委員となり居住者になることにつながりました。

- 現在の「いこっと」の課題として感じることは何かありますか？
  ー　[松村氏] 障害のある人とない人の生活リズムが合わず、全員が顔を合わせる機会が乏しいことが残念に感じます。

- 高取さんはどんな経緯でぱれっとの新しい家つくり計画実行委員長として関わることになったのですか？
  ー　[高取氏] たまり場がきっかけでぱれっとに参加していました。一方で、コレクティブハウス聖蹟のワークショップに参加していて、その経験も買われ実行委員長に任命されたようでしたが、突然のできことでした。

- 新しい構想の住まいかたですが、障害者本人、その親の反応はいかがですか？
  ー　[菅原氏] まだ日本の中には「いこっと」のような住まいがほとんどない為、障害者本人も親もイメージが沸かない方がほとんどです。親の方は、ケアしてくれる人がいないと安心できず一人で自立した生活はできないという固定観念がある方が多いようです。障害者本人は住みたいと思っているのに、親が頼りにしてしまい逆に離さないケースもありました。これからどう変わっていくかを見守りたいと思っています。

- 障害者本人について、グループホームではなくてなぜ「いこっと」に住みたいと思うのでしょうか？
  ー　[松村氏] みな勉強をしたいのだと思います。集団生活をしていく中で学ぶ事が多く訓練となる面もあるのではないでしょうか。
  ー　[高取氏] コミュニケーション、人との交流を求めているのだと思います。
  ー　[松村氏] 実際はまだグループホームに住んでいる意識の方もいるかもしれません。
  ー　[菅原氏] いつ何を食べてもいいという自分で決められる自由を手に入れるだけでも価値のあることなのです。逆に親は自由となることを心配します。障害者は決められたルールの中で監視をされて生活をしていることが多いのです。自分で決められる自由さは当たり前にあっていいはずなのに、今までの生活になかったこと。障害者健常者に関わりなく当たり前にあるべき生活だと思います。

－　[菅原氏] アメリカではどんなに障害が重くても一人暮らししているケースが多く、家を借りるのに国から支援がでます。サポートしてくれる人を公募し、家賃は障害者自身が負担しています。対して日本にはニーズに対するサポート、サービスが無いと感じます。

- 「いこっと」で暮らすにあたり、何か条件のようなものはあるのでしょうか？

  －　[菅原氏] 「いこっと」の入居基準は自立して身の回りのことができる方（知的の障害(軽度)の方）としています。

  －　[松村氏] 障害が重度、中度の方には国の制度があるのですが、軽度の方は住まいの行き場がなく自宅になる傾向があります。国の制度がない部分の受け皿として「いこっと」の存在意義があると感じています。ヘルパーなど外部のサポートを受けるほどではない、日々のちょっとしたサポートが得られれば生活をしていける障害の程度の方はたくさんいます。「いこっと」においては、そのサポートというのも同居する健常者にとっては特別の意識をしない程度のものです。

- 家をつくるまでの過程にはワークショップが何回も開催されていますが、どういった思いだったのでしょうか。

  －　[高取氏] いろんな人が参加し一緒に創ってくことが重要で、居住予定者、もちろん障害者本人やその親、ぱれっとボランティア、建築関係者・・といった方が話し合いに参加しました。24 回実施し、毎回のかなり重たい話し合いでしたが、どこまで丁寧にやるかは常に試行錯誤でした。

  －　[菅原氏] 話し合いをやっているうちに関係性が変わっていき、人間関係が作られていくことが重要です。特に親の方は最初、不安の発言が多かったのですが、一緒に住む方がどういう方かが分かってきたら「こういう場合はどうしたらいいか？」など質問が建設的なものへと変わっていきました。当たり前じゃないことを当たり前にしていく、一緒に暮らしていく為にはどういうことが必要となるのか、何を大事にした家なのか？・・お互いの意見をぶつけ合い、何度も話し合いました。

- ちなみに話し合いの中で一番紛糾したのはどんなことですか？

  －　[セミナー参加者 : ぱれっとボランティア　足立氏] バリアフリー化についての話し合いが大変でした。当初は当たり前に住宅がバリアフリー化する中でエレベータはつけるべきだろうという意見だったのですが、話し合いの中で「それは重要なことだが今回のケースは間取りのことも踏まえてどうだろうか」と検討を重ねました。

  －　[菅原氏] 障害者であったり男女を特殊として考えていることが話し合いでも出てきました。これはなかなかぬぐえない部分であり、トイレは男女別にするかなどの議論が出ました。しかしそもそもどんな家を作ろうしているのか？施設ではなく当たり

前の家を作りたいということに立ち戻って、何度も話し合いをしていきました。

- 共有部の掃除などはどうしているのでしょうか。必要なルールなどはどのように決めているのでしょうか？

  ー　[松村氏] 当番制で掃除していますが、入居前に決めたルールがまだきちんと機能していない状態です。

  ー　[菅原氏] 入居者はミーティングで掃除や見学者の受け入れなどについて、自分たちでルールを検討します。一方、入居者ミーティングとは別に運営委員会ミーティングも残すこととしました。

- 共有部分の消耗品の購買はどうしているのでしょうか？(会場参加者からの質問)

  ー　[菅原氏] 入居者同士で均等割りです。物の管理については、入居者で会計係、掃除係、備品係などの係りをつくって対応しています。

  ー　[菅原氏] なお、共有部の家具、電化製品については、渋谷区から 200 万、東京都から 200 万助成金を得ることができ、ぱれっと側で準備しました。

- 障害者自立支援法の枠外にある為、国からの運営費は出ないのでしょうか？家賃は障害者年金だけでは払えないのでは？（会場参加者からの質問）

  ー　[菅原氏] 国からの補助金は一切なしです。入居条件としては仕事をしていて一定の収入がある人に限定しています。ただ、渋谷区と交渉して所得の低い方に対しては家賃補助をしてもらえることになりました（障害のある方で所得が低い方に対し月 2 万)。ただ、現在この補助を使っている方はおらず、みな自らの収入で家賃・生活費を賄っています。

- 障害者と健常者の割合はどのようになっていますか？(会場参加者からの質問)

  ー　[菅原氏]　8 名入居者のうち、理想は 4 人が障害者ですが、現在は 2 名の障害者の入居となっています。

- 入居のプロセスで大事にしていることはありますか。

  ー　[菅原氏] 募集はぱれっとからインターネットやぱれっと通信などを通じて実施し、入居条件などは事務局から説明します。また事前に入居している方やぱれっとと面接をするようなプロセスを設けています。

- 建築基準法でいうと名称は何になるのでしょうか？（会場参加者からの質問）

  ー　[高取氏] 寄宿舎。集合住宅としてはできませんでした。

- サブリース方式ですが、空き室の負担はどのようにしているのですか？（会場参加者からの質問）

  ー ［菅原氏］ぱれっと側の負担としています。９月までは状況に合わせての予定で、９月以降はぱれっと側が一括して負担する契約としています。

- その他、会場からのご意見

  息子が自閉症ですが、ぜひこういう住まいがもっともっと増えて欲しいと願っています。もし自分で家族をつくることは出来なくても子供の面倒をみてあげたり、人と触れ合ったりする生活はできるのではないか。そういう社会が当たり前になればいいと思います。

以上